



藤枝市長  
北村 正平



- 【データ】 ※令和6年3月末日現在
- ・人口：140,365人
  - ・世帯数：61,550世帯
  - ・面積：194.06k㎡
  - ・市の花：藤
  - ・市の木：松
  - ・市の鳥：ウグイス
  - ・特産品：お茶、藤枝朝ラーメン  
清酒、藤枝ハイボール
  - ・イベント：  
藤まつり(4～5月)  
全国PK選手権大会(8月)  
ふじえだ産業祭(10月)  
スポーツ&健康フェスタ(12月)

### 【 藤枝市の紹介 】

令和6年に、**市制施行70周年・サッカーのまち100周年**を迎えました。

藤枝市は、静岡県のほぼ中央にあり、富士山と駿河湾を望む、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた地域で、古くは、東海道五十三次の21番目の「岡部宿」、22番目の「藤枝宿」を中心とする宿場町として、また、難攻不落と称された「田中城」のある城下町として栄えてきました。

藤枝市といえば、古くより「**サッカーのまち**」として全国に知られ、数多くのプロサッカー選手を輩出しています。現在では、Jリーグクラブの「藤枝MYFC」を頂点に女子サッカーなど幅広く“市民スポーツ”として定着し、「**蹴球都市**」としてのブランドを冠してスポーツの枠を超えた市の文化として根付いています。



また、市内には瀬戸川と朝比奈川の2つの大きな川が流れ、良質な水に恵まれたこともあり、昔から酒造りも盛んで、現在においても「**4つの自慢の酒蔵**」があります。



その他にも「お茶のまち」「日本遺産のまち」としても知られる藤枝市は、利便性の高い都市機能が集積する中心市街地と、豊かな自然あふれる中山間地域が織りなす「ほどよく都会。ほどよく田舎。」を魅力として、“**選ばれるまち**”づくりを進めています。

本市では、暮らしの基本となる「健康」「教育」「環境」「危機管理」の頭文字をとった「4K施策」に取り組むとともに、ICT・IoTを活用した市民サービスの付加価値を高める事業など、「**幸せになるまち 藤枝づくり**」を推進しています。



## 【健康都市の実現に向けて】



Fujieda  
Local  
SDGs

ICT・デジタル活用を基軸とした【安全・快適・便利】ふじえだスマート・コンパクトシティの確立と“食と農×健康・医療”で変革を生み出す産学官民による共創都市の実現に向けて、「藤枝市新総合戦略」を策定しました。

また、藤枝版ローカルSDGsの実現を軸とした「第6次藤枝市総合計画」との一体的な施策推進により、国際社会に貢献する「健康都市ふじえだ」を目指しています。

## 【“守る健康”と“創る健康”で「健康・予防日本一」藤枝づくり】

### “守る健康”

#### ○健康医療相談アプリ『HELPO（ヘルポ）』の実装

- ・市民が無料で使えるオンライン上の健康医療相談アプリ
- ・24時間365日体制で医師、看護師、薬剤師が相談に回答
- ・健康、育児などの困りごとに対応



### “創る健康”

#### ○企業向け『健康経営』の推進

- ・従業員の健康課題に取組み、働く人の健康管理を経営的な視点で実践
- ・「運動」「食事」「休養(睡眠)」「歯や口の健康」の各健康講座を6か月間、毎月実施して従業員の健康増進を支援
- ・実践前後の健康度を数値化し、健康効果のエビデンスを取得
- ・ホテル宿泊券を特典として、地域経済の活性化



#### ○『ふじえだ健康マイレージ』を活用した生活習慣の定着化

- ・“楽しい”“お得”を切り口に健康無関心層への健康アプローチ（紙・web版）
- ・「運動」「食事」などの健康行動に2週間チャレンジ
- ・ポイントを貯めて「健康」と「協力店での特典」を同時にゲット
- ・協力店のサービスをインセンティブとした公費不要の循環型システム(静岡県との協働事業)



#### ○『野菜を食べて健康フェア』の開催

- ・食育の観点から、包括連携協定を締結したカゴメ(株)と静岡県などと連携し、日々の食事での野菜摂取不足を解消する取組み
- ・スーパーマーケットと連携して、地産地消の推進
- ・市内ホテル宿泊券を特典として、地域経済の活性化

#### ○『オトナ女子の朝活ヨガ』の開催

- ・「運動」と「休養」を組み合わせた“オトナ女子の朝活ヨガ”を実施
- ・開放感のゴルフ場を活用し、朝日を浴びて心も身体もリフレッシュ
- ・自分自身のために使う時間を持ちにくい女性の健康づくりを応援



静岡県藤枝市健康福祉部 健やか推進局 健康企画課  
電話 (054)645-1113 FAX (054)645-2122